

未来を担うこどもたちを地域で育てる

小平地域教育サポート・ネット事業
(学校支援ボランティアの推進)

実践事例集

令和7年度版



小平市教育委員会

もくじ

はじめに

「発行によせて」

♪小学校♪

事例1 小平第一小学校

～特別支援学級「若竹学級」のこどもたちと保護者を支援。「若竹ボランティア」の活動～

事例2 小平第二小学校

～できるときにできることを 学校と地域で育てる小平二小～

事例3 小平第三小学校

～花いっぱいボランティアと取り組むSDGsと環境教育～

事例4 小平第四小学校

～地域支援者の協力により、全学年で地域参画型授業が実践されています～

事例5 小平第五小学校

～読み聞かせでこどもたちの心豊かな成長と学びを～

事例6 小平第六小学校

～いつも、地域の方々に見守られています～

事例7 小平第七小学校

～地域とともにある学校を目指して～

事例8 小平第八小学校

～多彩な学習支援をかなえる、コミュニティ・スクールのつながり～

事例9 小平第九小学校

～保護者と地域が繋がるミシンお助け隊～

事例10 小平第十小学校

～こどもも大人も関わる力を大切に！～

事例11 小平第十一小学校

～人と人とのつながりを大切にするボランティア活動～

事例12 小平第十二小学校

～コミュニティ・スクールになり、地域と共にこどもを育てる学校です～

事例13 小平第十三小学校

～こどもたちの笑顔いっぱいの学校に！～

事例14 小平第十四小学校

～理科や生活科の授業をサポートしてこどもたちと一緒に花いっぱいの学校に！～



事例15 小平第十五小学校

～十五小では図書ボランティアが日本十進分類法の授業をおこなっています～

事例16 花小金井小学校

～こどもたちと共に楽しくボランティアを！～

事例17 鈴木小学校

～地域とのつながりを大切に～

事例18 学園東小学校

～ 学園東小学校はコミュニティ・スクールとして、地域とともにある学校づくりを進めています ～

事例19 上宿小学校

～こどもたちの癒しの広場づくり～

♪中学校♪

事例20 小平第一中学校

～ジョブスクール 10年後の君たちへ～

事例21 小平第二中学校

～自主的な学習を見守り、応援しています～

事例22 小平第三中学校

～ひとりみんなのために みんなはひとりのために～

事例23 小平第四中学校

～健やかな成長を願いながら～

事例24 小平第五中学校

～人と人、思いと取り組みをつなぐコーディネート～

事例25 小平第六中学校

～地域とのつながりを意識化～

事例26 上水中学校

～上水中は緑豊かで花いっぱいです～

事例27 花小金井南中学校

～ 一人一人を大切にする学校 ～



はじめに 「発行によせて」

この事業は、平成14年度に東京都の3年間の補助事業「地域教育サポート・ネット事業」モデル地区の指定を受け、二中地区4校（二中、六小、十三小、十五小）で実施したことがはじまりです。

以前から小平市では、民生委員・児童委員、小学校区単位で活動している青少年対策地区委員会、PTA・保護者の方々などが、学校との連携に積極的にかかわってきました。こうした小平市を支える地域の皆さまにとって、小平地域教育サポート・ネットは格好の事業となりました。

平成17年度からは市の単独事業として4校以外の学校への拡大を図り、平成23年度には国の補助事業「学校支援地域本部事業」を取り込んで、小学校19校、中学校8校の全27校での実施に至りました。

なお、平成29年度からは国が補助事業名を「地域学校協働活動推進事業」と変更していますが、小平市では、すでに全市的な取組みとして「小平地域教育サポート・ネット事業」を展開していることから、事業名は継続して利用しています。

各学校では、それぞれの学校のニーズに合わせてボランティア養成講座が、開催されています。講座の会場を学校とすることで、学校と地域の垣根を低くしてボランティアを養成しています。

また、養成講座を受講した社会人の方や学生の方が、実際に、学校支援ボランティアとして活動しています。

学校支援ボランティアの方々は、学習支援、部活動指導、環境整備、登下校安全指導、学校行事などに携わり、中には、長年にわたり活動を続けていらっしゃる方もおり、学校運営に欠くことのできない存在となっています。

第二次小平市教育振興基本計画では、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に取組み、地域の緩やかなネットワークづくりを進め、未来の創り手となるこどもたちの成長を支えていくことを目指しています。

この実践事例集が、学校支援の質の向上や学校区ごとの活動を充実させる一助となれば幸いです。

小平第一小学校の取り組み

～特別支援学級「若竹学級」のこどもたちと保護者を支援。「若竹ボランティア」の活動～

コーディネーター世話人：青木雅代

コーディネーターの人数(世話人含む):5人 ボランティアの人数:約50人

★わが校・地域の概要(様子)

本校は、明治6年に「協同学舎」として開校し、令和5年度に創立150年を迎えました。そのため何世代にもわたって一小に通う家庭も多くあります。玉川上水が近くに流れ、中央公園、体育館も隣接し、こどもたちの活動の場に恵まれた環境に立地し、保護者や地域の方々の協力、近隣の白梅大学との連携もあり、充実した教育環境にあります。令和5年度にコミュニティスクール指定されてから3期目を迎え、地域と共にある学校として歩んでいます。令和7年度は、特別支援学級を含め19学級、483名の優しく、元気な児童が在籍しています。

★わが校の支援の取り組み

現在、学校支援ボランティアとして「花と緑のボランティア」「図書館ボランティア」「読み聞かせボランティア」と「若竹ボランティア」「一小安全ネットワーク」の活動を行っています。これらの支援は、地域・保護者の方々に参加していただいています。どのボランティアも、こどもたちが安心・安全な環境で日々を過ごし、そのこどもたちの笑顔が見たいという思いで続いている活動です。「読み聞かせボランティア」と「若竹ボランティア」は、PTA活動として在校生の保護者が中心となって実施してきましたが、近年、ボランティアの減少により運営が難しくなっていました。そこで、コミュニティスクールの立ち上げと同時に、学校支援ボランティアの活動とし、地域教育コーディネーターが、広く地域の方々にも参加を募ることになりました。

★わが校の特徴的な取り組み ～「若竹ボランティア」～

平成8年、一小PTAに発足し、令和7年で30年目を迎える、伝統ある活動です。若竹学級の保護者の皆様が安心して保護者会に参加できるように、お手伝いをしたいという思いで活動を始めました。令和5年度からは、PTA活動から学校支援ボランティアの1つとして活動を続けています。活動内容は、若竹学級の保護者会時に、保護者の皆様が安心して会に参加でき、こどもたちが楽しく過ごせるように、校内でお子様を預かるというものです。個々の特性も配慮して、こども一人につき一人のボランティアがつけられるようにしています。この活動は、平成24年に全国特別支援教育推進連盟の依頼で事例発表も行っています。

①目的

- 希望するすべてのこどもたちが参加できるように十分なボランティアの人数の確保。
- 保護者が安心して、こどもを預けられるようなボランティアの育成。

②取り組みを開始した(学校支援ボランティアとした)経緯

- 在校生の保護者ボランティアの減少で運営が難しくなってきたため。

③活動内容

- 「若竹ボランティア」代表(コーディネーター)のサポート。
 - ・保護者・地域の方々へボランティアのお願い。
 - ・教育委員会が開催する「特別な支援を必要とするこどもたちへ」などの講演会を利用してボランティアのスキルアップを図る。
 - ・若竹学級の保護者とボランティアの交流会などを開催し、保護者・ボランティアそれぞれの意見を聞く。

④気を付けていること・苦労していること

- こどもたち個々の留意すべき点などについて、保護者との連携を密にし、情報を共有する。

⑤この取り組みの成果

- ボランティア経験者、地域の経験豊富な方々が参加してくださることにより、十分な数のボランティアが確保でき、預かれるこどもの数も増え、保護者の安心をより得られるようになった。
- 新しくボランティアに参加した方々が、経験者の方々から学ぶことが多く、安心してボランティア活動ができるようになった。

⑥今後の課題

活動内容のさらなる理解、浸透を図るため、保護者の集まる機会などを捉えて積極的なPRをするとともに、地域の方々にも広く呼び掛け、新たなボランティア参加者を増やしたいと考えている。保護者会が、他学年と同日開催となっているため、保護者の参加が難しい状況となっているため、卒業後も活動に参加してもらえるような呼びかけを行っていく必要がある。



小平第二小学校の取り組み

～できるときにできることを 学校と地域で育てる小平二小～

コーディネーター世話人：岩瀬 郁子

コーディネーターの人数(世話人含む):2人 ボランティアの人数:約10人他単発メンバー

★わが校・地域の概要(様子)

本校は明治6年文ぶん舎やぐら学舎から数えて令和5年に創立150周年を迎えました。校庭には草木が多く緑豊かな環境に囲まれています。児童数は特別支援学級も含めて554名の元気で明るい児童が在籍しています。地域の人材には、草花のボランティア経験や理科実験教室の講師を務める方がおり、幅広い多様な学校支援の協力を受けています。

★わが校の支援の取り組み

ここ数年、PTA/青少対/地域と学校が連携をし、サポートスタッフの募集方法などの改革を行っています。スマホの利用が多いことから、アプリでの募集や告知、スクールメールなどで呼びかけを行い、年間の活動のスタッフのほかに行事やイベントごとの単発スタッフを募集しています。

令和5年に150周年事業が終了した後は、【図書室、理科室の整備活動】【花壇の整備】【ピオトープの整備】【学習支援】【家庭支援プロジェクトちょっとした悩み事相談室】の活動をしています。学習支援では授業サポートのボランティアを募集したり、地域の人材を紹介したりしています。

★わが校の特徴的な取り組み ～学習支援 海を越えて～

①目的

学習支援サポート(様々な人材による学習支援)
5年生 社会科～小平と神津島の交流教室 サポート

②取り組みを開始した経緯

令和5年まで二小に勤務していた教員が東京都神津島へ異動したことをきっかけに5年生の社会科ICT教育の一貫として、現地の小学校とmeetを使用した交流授業をサポート。



③活動内容

現地の漁業協同組合の方をゲストティーチャーにお呼びして、数回にわけて漁業や島の生活について学び神津島と小平の子どもたちの交流を図った。

④気をつけていること・苦労していること

人材を紹介する際、ゲストに来てくださる方のお仕事の邪魔にならないよう配慮すること。ご厚意によるボランティアでいらっしゃるの、児童とともに感謝をしっかりと伝えること。ICTを使用する際、ネット環境によって授業が止まってしまうこともあるので、事前に大事なことは動画を使用したり、環境を整えることが必要と感じた。

⑤この取り組みの成果

同じ東京都ではあるが、内地の小平と、神津島での生活環境が違うことや、漁業の仕事のことがリアルタイムの交流によって話し合いができたことで、子どもたちの学びにつながった。

⑥今後の課題

今回は5年生の社会科の授業サポート例だが、6年生のキャリアサポートやほかの学年へのゲストティーチャーが見つからないことがあるので、ほかの小学校での実績や地域コーディネーター同士の交流などをもっと頻繁に行えると良いと考える。

小平第三小学校の取り組み

～花いっぱいボランティアと取り組むSDGsと環境教育～

コーディネーター世話人：西野 護・島野圭子

コーディネーターの人数：2人 ボランティアの人数：約110人

★わが学校・地域の概要（様子）

小平第三小学校は、五日市街道に面し、玉川上水の緑と閑静な住宅に囲まれています。今年度の児童数は685名です。本校は令和7年度に開校145周年を迎えました。11月10日にはこどもたち手作りの145周年集会在開催されました。

また、保護者や地域の方に卒業生が多く、ボランティアとしてもご協力くださっています。コミュニティ・スクールも6期2年目となり、学校経営協議会は学校、保護者と共にこどもたちの健やかな学校生活のために、日々努力を続けています。

★わが校の支援の取り組み

本校には6つのボランティアがあり、その紹介のチラシを保護者・地域の方に配布して、掲載しているQRコードから随時登録できるようになっています。図書ボランティア、花いっぱいボランティア、さんさん広場(昔遊び)、みこちゃん見守り隊(登下校の見守り)、ベルマークボランティアは、代表者を中心に活動しています。

もう一つは授業支援ボランティアです。先生方から依頼を受けて、スポーツテストボランティア、校外学習の見守り、グストティーチャーの手伝い、ミシン授業の手伝いなどの活動があります。

★わが校の特徴的な取り組み ～バイオネストづくりや授業内外での環境教育～

①目的

花いっぱいボランティア（以下、花ボラ）は、単なる美化活動だけではなく、授業や放課後活動などを通して、こどもたちの情操教育の向上を目指して活動しています。また、手入れされた花壇を保つ事は学校全体の防犯にもなり、地域やこども達の安全を守る手段にも繋がります。

今回取り上げたバイオネスト作りは、こども達がSDGsな資源循環のしくみを体感できる事を目的としました。

②取り組みを開始した経緯

花ボラが生物多様性に配慮した花壇づくりを実践していること、また環境教育の経験があるメンバーがいることから、花壇の雑草や校内の落ち葉を堆肥化するバイオネスト作りを希望していたところ、環境委員会が管理している花壇の一角に製作場所を提供していただいた事、小平市役所道路課より伐採された桜の枝をいただくことができた事で、環境委員会のこども達と花ボラの合同で製作することになりました。

③活動内容

- 【1】環境委員会と花ボラの共同によるバイオネストづくりとSDGsを説明する看板の設置
～環境委員会への花ボラによる出前授業&共同作業によるバイオネストづくり（地域の発生材を活用）
- 【2】バイオネストでできた堆肥を活用したピオラの植え込み体験
～1年生の生活科の授業にて資源循環の説明をするとともに、ピオラ植え込み体験を花ボラが担当
- 【3】自然の楽しさを体感してもらう「わくわく発見コーナー」の季節展示を花ボラが企画制作
～見たり触ったり五感を刺激する展示を季節ごとに設置
- 【4】虫の観察のための「インセクトホテル」づくりと生物多様性に配慮した花壇づくり
～生き物観察の授業に活用されればと校内の剪定枝を活用して制作
- 【5】1年生が授業で作るクリスマスリースの飾り用に、花ボラが花壇の花をドライフラワーにして提供
～様々な草花のドライフラワーや木の実など、計10種を超える自然素材を提供



④気をつけていること・苦労していること

- ・花ボラの広範囲における貢献に対して、直近の2か年についてはPTAから花ボラに一部予算提供していただく事が決定しましたが、引き続きPTAや保護者への花ボラ活動の貢献内容について周知理解を求めていく必要があると感じています。
- ・花ボラが管理する花壇面積が広く、花苗の確保については、花ボラメンバーが自宅で種から花苗を育てるなど、様々な自助努力によりまかっています。直近の2年間は、PWという花苗メーカーのアンバサダー制度に応募し、苗の提供を受けることができています。

⑤この取り組みの成果

- ・これまで実現が難しかったSDGsの実践的な取り組みや環境学習を、花ボラの専門知識によりこども達に提供することができました。
- ・バイオネストは、校内の落ち葉や雑草のごみ排出量の減少に貢献しています。また、他校へ参考になるようにバイオネストの作り方および三小での制作の過程についてレポートをまとめることができました。

⑥今後の課題

- ・花ボラの活動内容が拡大する一方で、メンバーの加入数が増えないこと。
- ・これまでの取り組みについて、先生方や花ボラメンバーが変わっても継続できるよう記録を残す必要が重要と考えます。

小平第四小学校の取り組み

～地域支援者の協力により、全学年で地域参画型授業が実践されています～

コーディネーター世話人：岸 國男・洞 真由美

コーディネーターの人数(世話人含む)：2人 ボランティアの人数：約100人

★わが校・地域の概要(様子)

小平第四小学校は、近くに玉川上水が流れる、とても緑豊かな地域に立地しています。保護者や地域の方々、更には近隣の津田塾大学、東京学芸大学の方も学校に大変協力的で多彩で、地域ボランティアグループ、「ナラミースタッフ」及び「放課後子ども教室実行委員会」を中心として多様な支援を行っています。

令和7年4月1日現在、児童数は386名、特別支援学級を含め19学級です。

★わが校の支援の取り組み

玉川上水の歴史や自然に係る授業や体験活動、津田塾大学と連携した外国語活動、学校の要望を受け、放課後子ども教室において開催している四小寺子屋、プログラミング教育など、地域の教育力を生かした多彩な授業支援を行っています。地域教育コーディネーターが随時、教員、大学、地域支援者間で、学校経営の基本理念を念頭にして、授業支援についての協議や情報共有を行っています。

特徴的なのは①年度初めに全学年から生活科や総合的授業の年間プランが提示されます。②毎月、前記①で間近に迫った授業の内容について担当教員とナラミースタッフが話し合い、結果を実施要領にまとめ、授業支援の質を高めることに努めています。このような地域参画型事業を通して、地域と学校が連携した取組を実践しています。

★わが校の特徴的な取り組み ～「玉川上水を核に全学年で地域参画型授業を実践」～

①目的

学区内を流れている玉川上水を学校全体の学習資源として位置付け、歴史的、環境的に価値ある玉川上水のすばらしさに気づき、理解を深めます。さらに学んだことを基に地域の人にそのよさを発信していくことを目指しています。

②取り組みを開始した経緯

「こんな近くに玉川上水があるのに、年に1回しか授業でやらないのは、もったいない。年間を通して全学年の児童に勉強させたい。」との学校側の呼びかけにより、平成18年度に地域の方々の協力を得て「玉川上水ウォッチング」が始まりました。

③活動内容

1年生から6年生まで学年の発達段階に応じて生活科や総合的な授業の時間を使って学習を行っています。全学年合わせて年間約70校時(1校時=45分)以上行っています。

- 1年生：「玉川上水散歩・春に親しむ」「虫と仲良くなろう」「ドングリ工作」他
- 2年生：「玉川上水・新堀用水で遊ぼう」「秋探し」「橋の名の由来を調べよう」「お仕事インタビュー(7事業所)」他
- 3年生：「ヤゴ救出大作戦」「生き物探し」「地域安全マップ作り」他
- 4年生：「社会科見学～羽村取水堰・羽村市郷土博物館～」 「四季の玉川上水ウォッチング」他
- 5年生：「お仕事体験(19事業所)」「玉川上水フォト俳句」「小平うどん作り」他
- 6年生：「キャリア教育・地域の方をお招きしてお仕事紹介」他
- ならのみ学級：「四季の玉川上水発見」「地域の方々との交流会」「小平うどん作り」「どングリ工作」他
- こげら学級：「小平うどん作り」「木実でおもちゃを作ろう」他

④気をつけていること・苦労していること

日々学校側の授業支援ニーズを確認し、学校や教員の教育方針や授業方針に沿った支援を心がけています。

⑤この取組の成果

*地域の方からは「地域のすばらしさをこどもたちに伝えることができうれしい。こどもたちのいきいきとした活動を間近で見られることが楽しい。」という感想を多くいただきました。教員からも「教員だけではできない体験を中心とした授業が展開され、活動や学習内容をより深めることができた。教員の願いや思いをスタッフの方に助けられ、実現できた。」と喜びの声が届いています。

*「第21回ふれあい感謝状21」を受賞

昨年度、東京都教職員互助会からナラミースタッフのこれまでの授業支援を含め、玉川上水の環境などの保全活動が高く評価され受賞しました。

⑥今後の課題

以下の懸念があり、体験型授業の実施が困難あるいはできなくなる恐れがあります。

代替案を考えなくてはならないことが大きな課題です。

- *気候変動による夏季の熱中症対策で玉川上水での自然観察が困難になってきていること。
- *これまで自然観察、生き物観察などに活用してきた雑木林が住宅開発で今後利用できなくなったこと。



小平第五小学校の取り組み

～読み聞かせで子どもたちの心豊かな成長と学びを～

コーディネーター世話人 春名 久美子・對馬 博子

コーディネーターの人数(世話人含む):2人 ボランティアの人数:約40人

★わが校・地域の概要(様子)

小平第五小学校は西武新宿線花小金井駅・小金井街道に近く、商店街や住宅街に囲まれています。また、東部公園に隣接しており緑に恵まれた環境にあります。学区の住宅の増加に伴い、現在の児童数は763名と増えています。学校に協力的な保護者・地域の方が多く、いろいろな場面で支援していただいています。

★わが校の支援の取り組み

年度初めに、学校支援ボランティアの募集を行い参加いただける方には希望されるボランティアの登録をしていただきます。(図書ボランティア・花と緑のボランティア・教科支援ボランティア・防災ボランティア)

図書ボランティアは季節に合わせた図書室の飾り付けや本の整理と、特別支援学級を含む全学年での朝の読み聞かせをしています。花と緑のボランティアは花壇やプランターの整備を行い、長期休業中は花を枯らさないために水やりボランティアをお願いしています。教科支援ボランティアでは学校の要請に応じてその都度ボランティアを募り、校外学習の引率や家庭科のサポートなど学習の補助を行なっています。また、総合的な学習の時間の支援を担当の先生方と念入りに打ち合わせをして、必要に応じて外部講師をお招きもしています。防災ボランティアでは防災講座の開催や校内の安全点検などを行なっています。

★わが校の特徴的な取り組み ～ 図書ボランティアによる読み聞かせ ～

①目的

子どもたちの心豊かな成長や学びにおいて重要な役割を果たす読書の推進を図るため。

②取り組みを開始した経緯

学年が上がるにつれ本離れの傾向が見られるため、できるだけ本が身近にある環境を大切にしたいと思い、また学校からもそのような要請があったので、全学年を通して図書ボランティアによる読み聞かせの取り組みを行なっています。

③活動内容

毎年、年に3回、学期ごとの読書月間に合わせて朝の読み聞かせを行なっています。特別支援学級を含む1年生から6年生の各学級で実施しています。読む本はボランティアの方に選んでいただきます。学年や季節に合うよう工夫して選んでいただいているため、本選びも楽しんでいただいています。

今年度は朝の読み聞かせに加え、昼休みに「おはなしのお店」を開きました。体育館にてプロジェクターで絵本や紙芝居を映しながら、図書ボランティア数人で音読劇を行いました。それぞれが絵本の登場人物のセリフを読み上げ、通常の読み聞かせとはまた違った楽しさがありました。この取り組みは昨年度から先生方が行っていたもので、今年度は図書担当の先生と相談の上、保護者・地域ボランティアでも担当することとなりました。2学期に3回ボランティアによる「おはなしのお店」を開きました。

④気を付けていること・苦労していること

朝の読み聞かせはたくさんのボランティアの方が参加するため、同じ絵本にならないよう読んだ本を記録しています。「おはなしのお店」は、打ち合わせや練習で本番前に集まっただき、ボランティアの皆さんには何度もお時間を割いていただきました。

⑤取り組みの成果

朝の読み聞かせは、どの学年の子どもたちも集中して聞いてくれます。「おはなしのお店」も高学年を含めたくさんの子どもたちが聞きに来て楽しんでくれました。色々なお話を聞くことは読書に親しむきっかけになったのではないかと思います。ボランティアの方々もまた読み聞かせの時間をいつも楽しみにされています。

⑥今後の課題

読書月間の期間だけではなく、常に本が子どもたちの身近になるよう図書ボランティアとしてできることを今後もしていきたいです。

小平第六小学校の取り組み

～いつも、地域の方々に見守られています～

コーディネーター世話人：肥沼宏子・佐々木順子

コーディネーターの人数(世話人含む)：14人 ボランティアの人数：約100人

★わが学校・地域の概要（様子）

小平第六小学校は、西武拝島線小川駅に近く、府中街道沿いにあり、プリチストーン技術センター／東京ACタイヤ製造所に隣接しています。児童数は483名（令和7年5月）、17学級あり、令和7年度は創立65周年です。保護者・地域住民の方や、近隣にある事業所などの協力を得て、さまざまな体験学習に取り組んでいます。

★わが校の支援の取り組み

コーディネーター部会では、現在14人がメンバーとして、できるときに、できるだけを合い言葉に、ボランティアの確保、学習支援、放課後子ども教室への取り組み等を行っています。地域の方が中心となっている「ふれあいマンデー」「ふれあい安全パトロール」や、保護者が中心となっている「図書ボランティア」、さらに算数や図工の授業等の支援をする「学習支援ボランティア」などのボランティア活動があります。

★わが校の特徴的な取り組み ～「田植え」「稲刈り」サポート～

①目的

授業時間内で児童が効率よく、安全に作業できるようにサポートする。また、お手伝いが初めての保護者に対して、実際のサポート内容を伝える。

②取り組みを開始した経緯

先生方以外にも、経験のある大人の人手が必要となるため、コーディネーターに協力依頼があり、地域の人にも声をかけて集まっていただきました。

③活動内容

校庭の隅にあった田んぼに室外機が設置されることになり、平成26年に六小の隣の築山を棚田に開墾。毎年5年生がこの棚田（六棚）でお米づくりをしています。学校からの連絡を受けて、当日お手伝いできるボランティアを募集します。

田植えの日は、農家の方から苗の説明を受け、田植えをする児童に、植えやすい量の苗に分けて手渡すのが主な仕事です。田んぼに入ると子どもたちが泥だらけになるので、滑らないように声をかけたり、誘導したりします。稲刈りの日は鎌（かま）を使うので、安全に作業できるように見守ります。刈った稲を干すために、稲束を麻ひもで縛るのですが、こどもの力だと強く縛るのがむずかしいようで、大人が手助けをしています。

④気をつけていること・苦労していること

田植えは例年6月頃ですが、年により稲苗の育ち具合が異なり、農家の方も農作業でお忙しい合間に来てくださっているため、田植えの日が近くなると決まらず、ボランティアの人も予定が立てにくいのが悩みです。また天気によっては当日変更になることもあり、地域ボランティアの人たちに連絡もれないように気をつけています。

⑤この取り組みの成果

自然が相手であることを児童も大人も肌で感じ、お米が自分の口に入るまでにたくさんの工程があることを知り、自然のめぐみに改めて感謝する機会となっています。できあがったお米は「ハッピー六米」として販売されます。児童がパッケージデザイン、チラシ・ポスター作成、お店での販売まで担当しています。

⑥今後の課題

平日の授業時間に、学校に来られるボランティアの確保が課題です。情報発信の内容や方法を検討し、多くの保護者や地域の方たちとの接点を増やしていきたいと考えています。



小平第七小学校の取り組み

～地域とともにある学校を目指して～

コーディネーター世話人：岩川 妙子・日暮 るみ

コーディネーターの人数：9人 ボランティアの人数：約120人

★わが学校・地域の概要（様子）

小平第七小学校は、令和4年に開校60周年を迎えました。平成26年度にコミュニティ・スクールの指定を受けた本校は、小平第六中学校と小中連携を図りながら、地域の力を学校教育に生かしています。たくさんの保護者・卒業生・地域のボランティアの方々が日々学校を訪れており、こどもたちと挨拶を交わしてお互いを認識することにより学校及び七小地域全体の安心と安全につながっています。

★わが校の支援の取り組み

安全・図書・環境支援・飼育・学習支援や体験型授業の支援や各種ボランティア養成講座の開催、地域交流の一環として、小平グリーンロード灯りまつりと大沼公民館まつりの運営支援を行っています。

★わが校の特徴的な取り組み ～地域の方でこどもたちに豊かな教育を～

①目的

より豊かな教育活動を行うため、地域参画型授業を進めています。校外学習では多くの大人の目でこどもたちの安全を見守り、体験型授業では充実した体験ができるようサポートしています。学年単位の学力向上に向けた取り組みでは、たくさんのボランティアが入ることで一人一人にまで指導を行き渡らせ、こどもたちに多くのチャレンジ機会を与えることで学習意欲の向上につなげていきます。

②取り組みを開始した経緯

コミュニティ・スクールとなったのをきっかけに、地域参画型授業の拡充を目指してきました。現在は、学年の教員と世話人が校外学習や体験型授業について密に連携を図り、その内容を世話人と他のコーディネーター間で共有することでより広い支援要請ができる体制になっています。

③活動内容

教員と事前に打ち合わせをし、地域参画型授業の支援を行っています。

- 1年生 大根の種まきと収穫・体力測定・公園探検 など
- 2年生 町探検・サツマイモの収穫・九九検定 など
- 3年生 自転車安全教室・スーパーの見学・消防署見学 など
- 4年生 ガイドヘルプ体験・リサイクルセンター見学 など
- 5年生 高齢者疑似体験・多摩済生園訪問・ミシン授業 など
- 6年生 車椅子体験・ミシン授業 など



④気をつけていること・苦労していること

次回以降の支援につながるよう「ご都合のよい時に無理のない範囲で」をモットーに、ボランティアの皆様楽しく活動していただける雰囲気作りを心がけています。支援の日時が重なったり、連日の支援になる時期もあるため毎回同じメンバーになることもあります。仕事をされている保護者も増えたため、学校からの支援要請をなるべく早めにお知らせするなどして、多くの方がボランティアに参加しやすいようにしています。

⑤この取り組みの成果

多くのボランティアが支援に入ることで、より安全で充実した授業が行われています。自分のこどもだけでなく他の学年を支援して下さる方や、卒業生、こどもたちの祖父母世代の地域ボランティアの方々にも多数参加いただいています。世代を超えたボランティア間の交流も深まっている中で、さらに「地域で学校を支援していこう」という意識が浸透し、七小を中心とした地域の輪がますます広がっています。こどもたちも保護者以外の多世代の大人と接することで、挨拶や会話を積極的にするようになり、コミュニケーション力の向上にもつながっています。

⑥今後の課題

新たな地域人材の発掘と、継続的に支援して下さる保護者ボランティアの増員が課題です。また、コーディネーターを引き継いでくれる人材探しと声掛けが難しいために交代できないという現状もあります。

小平第八小学校の取り組み

～多彩な学習支援をかなえる、コミュニティ・スクールのつながり～

コーディネーター世話人：山口圭子・池島真美

コーディネーターの人数(世話人含む):6人 ボランティアの人数:約200人

★わが校・地域の概要(様子)

小平第八小学校の周辺には、こげらの森や小金井カントリー倶楽部、八小遺跡などがあり、緑が豊かでとても暮らしやすい地域です。保護者や地域の皆さまの温かい支えのなかで、児童は、毎日いきいきと学び、遊び、成長しています。令和7年12月1日現在、児童数は733名、24学級で、「思いやりのある子」「よく働く子」「工夫する子」「元気な子」という学校教育目標のもと、さまざまな地域学校協働活動が行われています。

★わが校の支援の取り組み

環境支援ボランティア

《図書ボランティア》

読書旬間にあわせて、目標を達成した児童にしおりをプレゼントしたり、PTAと協力して読み聞かせをしています。しおりは年間で1,600枚ほど作成しています。また、四季にあわせた飾りつけで図書室を彩る活動も行なっています。

《花いっぱいボランティア》

トイレを明るく心地よい空間にするため、花を飾る活動をしています。また、学校の花壇の手入れや、地域の皆さまと共に近隣の鈴木街道公園で花を植える活動をしています。

学習支援ボランティア

学習支援では、各学年の学習目標に応じた豊かで質の高い支援ができるよう、教員とコーディネーターが密に連携しています。2学年の「町たんけん」や低学年の「体力テスト」、高学年の「ミシンサポート」などには、保護者や地域の皆さまが毎年約200名ほど、学習支援ボランティアとして参加していただきます。

この他、年間360回を誇る「放課後こども教室」や、発足から21年を迎える「みまもりネットワーク」など、多彩な地域のカも八小の大きな魅力です。

★わが校の特徴的な取り組み ～「わんわんパトロールゲストティーチャー」を紹介～

①目的

1学年生活科「生きもの 大すき」の単元で、八小にゆかりのあるワンちゃんと交流しました。

②取り組みを開始した経緯

八小には、登下校を見守ってくれる「わんわんパトロール」のワンちゃんと飼い主さんがいます。毎朝、校門では数頭のワンちゃんが児童を出迎えてくれます。このような身近な存在のワンちゃんともっと仲良くなりたい！という児童からの声を受け、今年度は初めて、「わんわんパトロール」の皆さまをゲストティーチャーとしてお招きしました。

③活動内容

飼い主さんから犬の飼育についてのお話を伺い、さまざまなドックトリックを通してコミュニケーションを取りながら、ワンちゃんとの触れ合いを体験しました。

④気をつけていること・苦労していること

授業の目的や目標を、担当の先生やゲストティーチャーの皆さんと共有することです。今回は生き物を扱う授業であるため、アレルギー対応や安全面への配慮が必要でした。

⑤この取り組みの成果

この授業を通して、児童は犬への親しみを深めるとともに、「わんわんパトロール」という地域活動についても、関心や理解を深めることができました。この地域活動は、「みまもりネットワーク」の一環として行われており、八小地域の特徴である「地域と共に豊かな心を育てる」活動を体現する取り組みです。地域の皆さまに支えられながら児童が安心して学び、温かなつながりを感じられる環境づくりに大きく寄与しています。

⑥今後の課題

地域学校協働活動やコミュニティ・スクールへの保護者や地域の皆さまの理解がより一層深まり、今後も広く参画を募れるような活動を続けていくことです。

授業のようす



小平第九小学校の取り組み

～保護者と地域が繋がるミシンお助け隊～

コーディネーター世話人：島内麻恵・坂田智子

コーディネーターの人数：2人 ボランティアの人数：約20人

★わが学校・地域の概要（様子）

小平第九小学校は、昭和40年4月、公団小平団地の完成に合わせ、小平第三小学校から分かれてこの地に開校しました。児童数が1,600を超える時期もありましたが、現在は児童数427、通常級15学級、特別支援学級3学級となっています。

令和7年度に開校60周年を迎え、学校、地域、保護者が連携して児童の健全育成に努めています。例えば、放課後や週末などにこどもたちの居場所を提供する放課後こども教室（九小こどもクラブ）、休み時間にこどもたちと共に昔遊びをする「ハッピー九」、図書ボランティアによる読み聞かせや図書室の環境整備など、地域・保護者の方たちによる活動が日常的に行われています。

★わが校の支援の取り組み

2学期になると5年生・6年生の家庭科でミシンの授業が始まります。ミシンの糸掛けに始まり、糸の調整、ミシンの不調、アイロン掛けなどミシンの授業は児童の困りごとや安全管理が多岐にわたります。

保護者だけではなく、地域にも声を掛け、ミシンボランティアはミシンが得意でないと参加できないイメージから、だれでも参加できるボランティアを目指しています。

★わが校の特徴的な取り組み ～「ミシンお助け隊」～

①目的

児童のためのミシンボランティアから、保護者と地域をつなぐことを目指す

②取り組みを開始した経緯

展覧会での家庭科作品の展示に向けて、ボランティアの依頼があった

③活動内容

全学年の保護者とコーディネーターが地域の各方面・個々に声を掛けミシンボランティアを募集（各クラスの授業予定を各学年の先生から連絡を受ける）

↓

9小ボランティアの公式ラインに登録をお願いし、希望日を調整する

↓

当番表を作成し、先生に連絡する（欠席の場合も公式ラインを利用する）

④気をつけていること・苦労していること

- ・ボランティアに登録してくれた保護者にはお子さんのクラスの担当になるように調整する。
- ・公式ラインを使うことで、いつでも気軽に質問ができ、細やかな対応をすることで気軽に安心してボランティアに参加できる環境を作るようにしている。
- ・保護者全員に募集しているが、該当学年以外の保護者からの登録が少ない。

⑤この取り組みの成果

児童が帰宅後、ボランティアに手伝ってもらった事がうれしかったと家庭で話すことで、保護者ボランティアの増加につながった。

⑥今後の課題

ミシンが得意でないと参加できないボランティアだというイメージが強いため、敬遠されがちになっています。見守りだけでもかまわないということをアピールしていきたい。

小平第十小学校の取り組み

～こどもも大人も関わる力を大切に！～

コーディネーター世話人：今村泰子

コーディネーターの人数：1人 ボランティアの人数：約80人

★わが学校・地域の概要（様子）

小平第十小学校は、令和7年度に開校60周年を迎えました。玉川上水と五日市街道の南側に位置しており、周囲は宅地が増え大型マンションも次々と建ち並んできました。こどもたちは、元気よく地域の見守り隊の方々に朝や下校時にあいさつをしている姿が見られます。6年生をリーダーとした縦割り班の活動も盛んで、なかよし遠足・なかよし集会や毎日の掃除などにも取り組んでいます。また、きょうだい学級でのふれあいの時間もあり、さまざまな場面で関わり合いながら、思いやりのある心が育つ落ち着いた環境の中で過ごしています。

★わが校の支援の取り組み

「**図書**」学校図書館の本の修理や清掃、寄贈本を中心とした学級文庫の配置、今年度2学期から毎週火曜の中休みの開室を、図書ボランティア中心に開始しました。「**園芸**」プランターや花壇の花の植え替えや手入れ、夏休み中の水やりをしています。「**見守り隊**」登下校時に地域の方々が中心となり見守りを行っています。「**飼育**」週末や学校閉庁日などに当番を決めてニワトリたちの世話をしています。「**学習支援**」各学年で地域に出る活動時の見守り（学童農園、町たんけんなど）、高学年家庭科（調理・裁縫・ミシンなど）。その他として、プール見守り、ビブスの洗濯や給食着の手入れなども行っています。年に数回「学校支援ボランティア養成講座」として、本の修理や整備、花苗の植え替えを学ぶ講座などを開催しています。

★わが校の特徴的な取り組み ～「図書ボランティア、新たな取り組み」～

①目的

こどもたちに、よりいっそう、本に親しんでもらうためのさまざまな取り組みを工夫する。

②取り組みを開始した経緯

十小でいちばん長く活動を続けているのが「図書ボランティア」です。今までも、よりよい読書環境のために、学校図書館の本の修理や整備、本の清掃や部屋の装飾などを行ってきました。加えてここ数年で、寄贈本を中心とした学級文庫の配置が全学年で進みました。これらの活動は、読書環境を整えていくためにも継続していく予定です。そして、今年度の2学期からは新たな取り組みとして「火曜日中休みの学校図書館の開館」を開始しました。火曜日は通常は学校司書不在の曜日のため、今までは学校図書館の利用はできませんでした。そこで、学校や図書担当の先生とも相談しながら、試行を始めることになりました。

③活動内容

火曜日中休みの学校図書館開館準備、窓開け、見守り、閉館は図書ボランティアで行い、本の貸し出しは児童の図書委員が担当する、と役割を分担して取り組んでいます。学校図書館には一部畳のスペースもあり、来室するこどもたちはそれぞれ好きな場所でゆったりと読書をして過ごしています。安全な居場所になるよう、複数名のボランティアで当番を決めて入っています。

④気をつけていること・苦労していること

安全に過ごしてもらうため、学校図書館ではこどもたちに歩くよう言葉かけをしています。図書ボランティア登録者も少しずつ増えてきました。毎週複数名（2～3名）の当番を決めて都合のつくときに入ってもらるようにしています。

⑤この取り組みの成果

利用者が途切れないということは、こどもたちにとって居心地のよい場所になっていることが感じられます。こどもたちとボランティアの方とがかかわる様子も見られます。

⑥今後の課題

登録ボランティアの人数を増やしていくこと、マニュアルを作っておくことなど。

小平第十一小学校の取り組み

～人と人とのつながりを大切にするボランティア活動～

コーディネーター世話人：大場志のぶ・伊達佳代子

コーディネーターの人数(世話人含む):2人 ボランティアの人数:約200人

★わが校・地域の概要(様子)

小平第十一小学校は、小平市内の北東部に位置し、学区域は東久留米市・西東京市と隣接する場所にあります。平成31年にコミュニティ・スクールが発足し、地域の方々の協力のもと、様々な教育活動が進められています。学区域の住宅の増加に伴い、児童数720名、24学級と増えています。

★わが校の支援の取り組み

「時間がある時に・できることを・無理のない範囲で」をモットーに活動をしています。学校支援ボランティアを4つの部門(学習・図書・花と緑・見守り隊)に分けて、毎年ボランティア登録を募集しています。登録者のほとんどが複数の部門に登録しており、大変協力的な支援をいただいています。また、学校経営協議会とも連携し「見守り隊」による登下校の安全見守り活動に取り組んでいます。

★わが校の特徴的な取り組み ～多様な学びを支える学習ボランティア～

①目的

ボランティアがもつ多様な知識や経験を本校児童の学びに生かし、児童の社会性の向上や興味・関心の幅を広げています。地域の方々が具体的にに関わることで、見守られているという安心感とつながりをもたせています。

②経緯

学校と地域が連携して教育環境を整えていくため、依頼事項をフォーマット化し、ボランティア担当教員を配置していただいております。支援事項が明確になり、打ち合わせ等がスムーズに進められるようになりました。

③主な活動内容

- 1年生：むかしあそび、体力テスト
- 2年生：お店たんけん、体力テスト
- 3年生：まちたんけん、自転車安全教室
- 4年生：ガイドヘルプ体験、図画工作科(電のこ、彫刻刀)
- 5年生：家庭科(手縫い・ミシン)
- 6年生：家庭科(手縫い・ミシン)、My job My lifeゲストティーチャー



むかしあそび



委員会活動

◆その他の活動：図書ボランティア(図書室の整備)、花と緑(委員会活動見守り)、水泳、音楽会等

④気をつけていること・苦労していること

無理のない範囲で楽しく活動ができるようお願いしています。また、ボランティアが気持ちよく活動ができるように活動中の注意点などを伝えるようにしています。授業や行事が重なる時期は、調整が必要になります。

⑤成果

ボランティア登録者数が増えています。我が子の学年以外でも支援してくださる保護者の方や毎年楽しみに参加してくださる地域の方により、授業の充実とボランティア同士のつながりができています。ボランティアの方から今年もやりますよと声がかかることもあり大変ありがたいです。

⑥課題

児童数増加のため、活動場所の確保が課題です。保護者、地域の方々に活動を知っていただき、こどもたちと顔見知りになってもらい、あいさつができる関係作りをさらに進めていきたいです。

小平第十二小学校の取り組み

～コミュニティ・スクールになり、地域と共に子どもを育てる学校です～

コーディネーター世話人：澤井浩子・堀田美香

コーディネーターの人数：2人 ボランティアの人数：約30人

★わが学校・地域の概要（様子）

小平第十二小学校は、玉川上水付近にあり、自然にあふれた環境のもと、閑静な住宅街に位置しています。

令和3年度から、コミュニティ・スクールになりました。学校経営協議会のなかに、学力向上プロジェクトチーム、体力向上プロジェクトチーム、健全育成プロジェクトチームを作り、学校、保護者、地域が力を合わせ、それぞれの立場で子どもたちを支えています。

★わが校の支援の取り組み

コミュニティ・スクールになり、ボランティア募集の主導が、CS（コミュニティ・スクール）主体となりました。現在、地域教育コーディネーターが主催する支援は、おやじの会だけになりました。ボランティアさんの高齢化にともない、「花とみどり.12」は令和5年10月31日をもって活動を終了しました。保教会も令和7年度から任意のサポーターグループになり、ふれあいパトロール、見守りボランティアの活動も令和7年3月をもって終了しました。

★わが校の特徴的な取り組み ～十二小連絡協議会の復活～

①目的

コロナ禍で中止していた、十二小連絡協議会を復活しました。学校、保教会、青少対十二小地区、わくわくルーム（放課後子ども教室）、学校教育支援コーディネーターで、相互のコミュニケーションをとるため開催することにしました。

②取り組みを開始した経緯

以前は定期的に協議会を行っていましたが、コロナ禍に入りずっと中止していました。その間に、学校、保教会等の組織体制が変化したので、再度、協力体制をとるためです。

③活動内容

会議はまだ不定期だが、学期1回開催を目指す。各々の予定、相談したいこと等を話し合っています。

④気を付けていること、苦労していること

学校の行事、コーディネーター、保教会サポーターグループ、青少対、わくわくルーム、CS学力向上PT発信ボランティア等の1年間の予定表を作成し、一目で見られるようにしています。

⑤この取り組みの成果

今後、取組の成果をまとめていきます。

⑥今後の課題

3年後に創立60周年を迎えます。学校、CS、保護者、地域、協力体制の確立が大きな課題です。

小平第十三小学校の取組

～こどもたちの笑顔いっぱいの学校に！～

コーディネーター世話人：寺戸有子・岡真紀子

コーディネーターの人数：6人 ボランティアの人数：約30人

★わが校・地域の概要（様子）

本校は児童数360人。小川駅前の開発等が進む中自然豊かな地域である。校庭には、開校記念樹のたいさんぼくと緑の芝生がこどもたちの成長を見守っている。

★わが校の支援の取組

こどもたちのために保護者・地域の方と共に、学校支援ボランティアとして活動をしている。教員・全児童とボランティアの顔合わせとして全校朝会で、5月にはボランティア紹介集会、2月には感謝の集い集会を行ない交流を深めている。キャリア教育の一環として地域の人材の提供をしている。

- ①算数ボランティア・・・学習の補助。
- ②図書ボランティア・・・本の整理や修理。図書旬間にはしおりづくり。季節ごとの飾り付け。
- ③グリーンボランティア・・・玄関前の花壇を中心に四季折々の花植え。草取り、水やり等の手入れ。
- ④ランチルームボランティア・・・季節ごとのテーブルの飾り付け。クリスマスツリー装飾。
- ⑤ふれあいパトロール・・・登下校時、こどもの安全見守りと声掛け。
- ⑥芝生サポーター・・・夏季は週に3回、冬季は週に1回の芝刈り等の手入れ。
- ⑦放課後こども教室・・・放課後の居場所として活動。
- ⑧たんぼぼの読み聞かせ・・・月に1回朝読書の時間に1年生から6年生の各クラスで読み聞かせをする。

★わが校の特徴的な取組 ～「十三小ネットワーク」～

保護者・地域の方とともに、学校が必要とする教育活動を支援する芝生サポーター

①目的

校庭の全面芝生を生かして、児童の体力向上に取組んでいる。芝生サポーターとして、夏季は週3回、冬季は週1回の芝刈りなど、芝生の維持・管理に関わっている。

②取組を開始した経緯

校庭芝生の維持管理を”誰がどのように行うか”、学校・行政に各ボランティア・保護者が協力して本サポーターができた。

③活動内容

芝生サポーターと児童や教員と共に草抜きや捕植作業、夏季は週3回の芝刈りをしている。また年に数回芝刈り体験日を設定し参加してもらっている。

④気を付けていること・苦労していること

活動日の当番表作成・雨天中止の連絡は先生にお願いしている。

⑤この取組の成果

校庭の芝生の上で運動ができる喜びをみんなで分かち合える。学校・グラウンドキーパー・芝生サポーターで芝生委員会を行ない情報共有を行う。芝生の活動を通じ情報交換もできる。保護者の協力に感謝している。

⑥今後の課題

校庭芝生の維持管理を継続するために皆様のご理解とご協力が必要である。



小平第十四小学校の取り組み

～理科や生活科の授業をサポートして子どもたちと一緒に花いっぱい 학교に！～

コーディネーター世話人：橋本杏奈・松田めぐみ

コーディネーターの人数(世話人含む):2人 ボランティアの人数:41人(R7年度登録者)

★わが校・地域の概要(様子)

小平第十四小は、南向きの広くて大きな校庭に恵まれた、子どもたちの元気な笑顔あふれる学校です。花壇や学年畑が地域の方々のサポートで徐々に土壌改良されたおかげで、敷地内には一年を通してきれいな花々がたくさん咲いています。

★わが校の支援の取り組み

本校では、子どもたちに広く本に親しんでほしいと願っており、学校をあげて各教室内の本を整備しています。読み聞かせ活動については、登録のボランティアに限らず、たくさんの保護者の皆さんに協力いただいています。朝の時間に本を読む活動をすることで、落ち着いた気持ちで一日がスタートできると好評です。校舎2・3階の渡り廊下には、季節に応じた壁面を飾っています。季節のうつろいを感じられる心豊かな人に育ててほしいと願いを込めて飾っています。お花植えボランティアは、用務員さんにもご協力いただいて、学校を花いっぱいにするべく季節毎に違う花が咲き、旬の野菜を観察&収穫できるように精力的に活動しています。飼育ボランティアは、毎週末土日と祝日の朝に、二羽の烏骨鶏の小屋の清掃と餌やりを実施しています。ベルマークボランティアは、図書室の書棚・ミニキーボードを購入するなど、子どもたちが必要な物の購入があったときに向けてコツコツと頑張っています。

★わが校の特徴的な取り組み お花植えボランティア ～ 子どもたちもいっしょに！が キーワード！～

①立ち上げの経緯

もともとボランティアが花壇にお花を植えるだけの活動でしたが、子どもたちも植物に触れることで豊かな気持ちで学校生活を送ることができると考え、積極的に理科や生活科の授業のサポートに入ったり、花育授業の企画・提案をしたりするようになりました。地域の野菜農家の方、園芸農家の方にご縁があり、スキルアップ講座に講師として来ていただき、かなり本格的な活動ができていると自負しています。最終的には子どもたちが花を植えたり野菜を育てたりすることのサポートまでつながっているのが特徴だと思います。

②活動内容

一年中お花が咲いている環境を維持するために、園芸農家さんに相談しながら年間計画を立てて活動しています。子どもたちは花育授業で、花を種から育てたり、寄せ植えを作り一人一鉢お世話したりしています。子どもたちが種まきや植え付けをする際に、ボランティアがサポートに入っています。その他、スキルアップ講座で耕運機をかけていただいたり、防草シートや支柱立てのやり方を教えていただいたりしたことで、花や野菜の育ちが良く、ボランティアも達成感を感じています。

③気を付けていること・苦労していること

理科や生活科の授業のサポートに入ることも多いため、担任の先生方と何度も事前に打ち合わせをして、当日スムーズに活動できるよう気を付けています。お花植えは天候に左右されることが多いので、実際に活動が終わるまで気が抜けません。また、昨今お仕事をされている保護者の方も多く、なかなか平日午前中の活動に参加される方も減ってきているのが現状です。

④今後の課題

年間を通して参加できる方が少なくなってきたため、いろんな方に参加してもらうにはどうしたらよいか、試行錯誤の日々です。また、卒業した卒業生や、お子さんが卒業した保護者も地域ボランティアとして参加していただけるようお声掛けをしています。そういった地域の力があるので、活動を続けていけているというのが現状です。

また、近年の酷暑の状況を鑑み学校行事の年間予定が変更になっています。それに併せてお花植えボランティアの年間計画も見直す必要があるというのが現状です。今まで実施していた時期が学校行事の直前となり、先生方から日程の変更を依頼されることが多くなりました。



小平第十五小学校の取り組み

～十五小では図書ボランティアが日本十進分類法の授業をおこなっています～

コーディネーター世話人：河口真美子・村崎恵子

コーディネーターの人数(世話人含む)：7人 ボランティアの人数：約35人

★わが校・地域の概要(様子)

小平第十五小学校は、学童農園や緑豊かな自然環境に囲まれた地域にあります。こどもたちは先生方のご指導の下、異学年との交流や地域の方々との交流を通じて、「考える子」・「思いやりのある子」・「たくましい子」という教育目標を実践しています。また、日頃自由な行動を楽しんでいるこどもたちが、集会や避難訓練のような団体行動になると、自主的な判断でしっかりと規律ある行動をすることができます。長年にわたるこのような校風は、地域の誇りでもあります。

★わが校の支援の取り組み

平成14年度に学校支援ボランティア活動のモデル校として、保護者・地域の枠を超えたボランティア活動が導入されました。以来、現役の保護者と、かつて十五小に我が子を通わせた方達を中心とした地域の方々とが一体となって、こどもたちの学校生活を支援してきました。当初「学校図書館ボランティア」と「花と緑の会」を二本柱に発足した活動は、設立から24年を経て、支援の輪はしっかりと学校と地域に定着した感があります。また、初心を忘れることなく、常に学校や担任の先生と連絡を取り合い、先生方と連携のとれた学校支援ボランティア活動を目指しています。

★わが校の特徴的な取り組み ～ 調べ学習と日本十進分類法～

①目的

各学年で少しずつ扱われている「本の調べ方」「ボランティアが単独でこどもに相対するゲストティーチャーとしてではなく、各班に1人以上のボランティアが付き共に考える授業をすることで、先生・児童・地域ボランティアの連携ならではの学習ができることを目的としています。

②取り組みを開始した経緯

学校図書館ボランティア(現図書ボランティア)の発足3年目に、当時の管理職の先生から「自分が必要とする本を自分で探せる子」を育てるために、NDC(日本十進分類法)のパネルシアターをボランティアでしてもらえないか、と相談を受けました。それにこたえるために、NDCの勉強会を開催しながらパネルシアターの準備をする中で、当時始まって間もない「総合的な学習の時間」につなげてはという高学年の先生からの提案があり、準備期間を経て「本の探し方と調べ学習」という、学校図書館ボランティアによる授業が始まりました。

③内容

授業は図書室でおこなう2部構成で、前半が本のラベルの数字による本の分類を知るためのパネルシアター、後半はそれを実践するワークショップです。ワークショップは、班ごとの活動で、それぞれに1名以上のボランティアが付き添います。3年生では、ラベルを隠した10冊の本を実際に分類します。6年生では、班ごとにそれぞれ異なる「テーマ」が渡され、そのテーマを調べるための本を図書室の中で探します。どちらの学年も、最後に発表をして学習成果を確認・共有します。

毎回、ワークショップでは、1クラスが6～8班に分かれますが、どの班にもボランティアが付き添うことで、児童の疑問や相談に応じながら、45分という限られた時間の中で、スムーズな学習が進められます。

④気をつけていること

ボランティアがゲストティーチャーとして授業をさせていただくとはいえ、担任の先生との連携のもとに授業が成立するので、事前の内容確認は必須です。基本の内容は同じですが、授業をする時期なども含めて、先生方と相談しながら授業をおこなっています。

また、この授業に限ったことではありませんが、ボランティアが授業に入る場合に一番気を付けることは、個人情報です。特にワークショップでは、ボランティアが児童の質問を受けたり、一緒に考える場面が多くあつたりしますが、そこで発言された児童の言葉や様子は、児童の内面に関わることとして、原則としてボランティア間でも共有は控えています。この授業に参加するボランティアは、毎年開始前にこのことを確認し、活動に臨んでいます。

⑤この取り組みの成果

「本を自分でさがせる子」という目的以外にも、3年生の場合「本を自分で正しく棚に戻せる子」、6年生の場合には「一つのテーマを様々な観点から調べることができる子」が育っていると、先生方からコメントをいただいています。また、多くのボランティアが1つの授業に参加させていただくので、どの生徒も積極的に授業に参加できていると感じています。

⑥今後の課題

授業に入らせていただくので、授業の設定日時が必ずしも通常のボランティア活動の日時と同じになるわけではないので、それが異なった場合のボランティアの確保をどうするかという課題があります。今のところ、OB/OGの応援を仰いで人数を確保していますが、今後の課題です。また、定期的にNDC勉強会を開催して児童の質問に答えられるスキルを身に付けるようにしているので、日頃の活動の中でボランティアがNDCに興味を持てるような工夫を考えています。



花小金井小学校の取り組み

～子どもたちと共に楽しくボランティアを！～

コーディネーター世話人：池田真樹子・瀬川良子

コーディネーターの人数（世話人含む）：2人 ボランティアの人数：約180人

★わが学校・地域の概要（様子）

花小金井小学校は、西武新宿線花小金井駅から徒歩7分のところにあります。学区は線路を挟んで南側に広く、中ほどをグリーンロードが通り、小金井公園に接しています。創立52年を迎え、近年学区内にマンションや住宅が増加し、この10年程で児童数が倍以上に増えました（児童数712人／令和7年5月現在）。今年度より、学校に新しく増築された専科棟での学習も始まり「かしこく つよく やさしい子」の学校教育目標の元、子どもたちが元気に学校生活を送っています。また、令和5年度よりコミュニティ・スクールとなり、学校と保護者・地域が連携して子どもたちを支えています。

★わが校の支援の取り組み

本校では、主に「図書」「園芸」「安全」「学習支援」において、子どもたちのよりよい学校生活のために先生（学校）と保護者、CS、放課後子ども教室、地域の方と連携を図りながら日々取り組んでいます。
「図書ボランティア」は年間を通じて子どもたちの図書啓発のために活動しており、「園芸ボランティア」は花壇や畑の整備を中心に、学童農園での授業の支援や子どもたちとお米の栽培・収穫を楽しむ活動も行っています。
「安全」については、保護者の会が中心となり保護者ボランティアと地域の方の協力により登校の安全を見守っています。「学習支援」においては、教員とコーディネーターが丁寧にコミュニケーションを取り、都度必要な保護者ボランティアを募る活動をしています。

★わが校の特徴的な取り組み ～長年続く「図書ボランティア」が活躍中、保護者の多様化に応じ気軽に楽しく参加できる学習支援の在り方を目指しています！～

①目的

多くの保護者にボランティアの活動内容を周知し、気軽に協力してもらえる雰囲気を作ることで、子どもたちの学校生活をより豊かなものにする。

②取り組みを開始した経緯

子どもたちに図書室を活用してほしいという思いの元始まった「図書ボランティア」の活動は、平成15年から25年もの長年続いているわが校の伝統的な支援活動となっています。また近年の取り組みとして、児童数の増加や保護者の多様化により学習支援ボランティアの確保が難しくなる中、少しでも多くの保護者が気軽に子どもたちの学習を見守り支えられる環境を作ろうという経緯で、ボランティア参加者一人一人の負担を軽くしたり、学習支援ボランティアへの参加のハードルが下がるような講座の開催をしたりして積極的に取り組んでいます。

③活動内容

「図書ボランティア」は、読書目標を達成した子どもたちに贈るしおりの制作、中休みの絵本の読み聞かせや本の修理、季節に合わせた図書啓発のための壁面装飾などの活動をしています。また学校司書の先生と連携し、年に一度、本や本棚の拭き掃除を行い図書室の環境美化にも取り組んでいます。

「学習支援」においては、先生方と連携を図り、支援の必要性や内容を保護者へ具体的にわかりやすく伝えることを大切に、ボランティアの参加者に、子どもたちの支援を通じて自分も「楽しい」「学びになった」「またお手伝いしたい」と感じていただけるような活動を心がけています。今年度は秋に「ミシンボランティア養成講座」を開催し、安心して学習支援に来ていただけるよう、講師は花小の保護者（ミシンボランティアに継続して参加していただき裁縫の経験も豊富な方）に依頼して、家庭科の学習で実際に制作するものを想定した支援のポイントも伝える、等の工夫をしました。

④気をつけていること・苦労していること

多くの方にできるだけ継続して参加していただけるよう、活動は無理なく、「できる時に」「できる範囲で」「短時間でも」を基本としていますが、保護者の状況が変化する中、ボランティアの確保には苦心することもあります。

⑤この取り組みの成果

図書ボランティアの活躍により子どもたちが図書に親しみ、特に読書旬間にはたくさんの方が読まれ、嬉しそうにしおりのプレゼントを受け取る姿が見られます。「ミシンボランティア講座」については、参加してよかったとの声が多く、その後のミシン学習支援ボランティアもスムーズに集めることができています。また、10月の2年生の「町たんけん」では、ボランティアに参加した保護者から参加してよかったという感想のほか、今後の改善に活かせるような意見も寄せられ先生と共有しました。多くの保護者の参加が子どもたちの幅広い学習につながり子どもたちも楽しんでいる様子が伺えました。

⑥今後の課題

今よりも更に多くの保護者が学習支援ボランティアに参加しやすい雰囲気を作ることを目指していきたいと思えます。まずは、担当の先生や実際に協力して下さったボランティアの方々の声を聞き、つながりを大切にして、試行錯誤しながらより充実した取り組みに向けて努力していきます。

鈴木小学校の取り組み

～地域とのつながりを大切に～

コーディネーター世話人：角谷利枝・吉田恭子

コーディネーターの人数：2人 ボランティアの人数：約75人(公式ライン登録数)

★わが学校・地域の概要（様子）

今からおよそ3万7千年前の旧石器時代の遺跡(鈴木遺跡)の上に建つ、全国的にも珍しい学校です。開校は市内でも比較的新しい小規模校ですが、学級・学年を越えてみんなで協力する児童を保護者や地域の方々が見守っています。現在は児童数359名、14学級と以前よりかなり増えてきています。

★わが校の支援の取り組み

本校では、簡単に登録でき、いつでも情報を発信しやすいように公式ラインに登録をしていただいています。4月の全体保護者会にて公式ラインご登録のお願いをさせていただいています。図書ボランティア・グリーンボランティアは年間活動日を決めて、図書室の飾り付けや本の修理、花壇の整備をしています。また、学習支援では各学年の担任の先生方と連携し、その都度必要なボランティアを募っています。ボランティアのある週には公式ラインにて「今週のお手伝い」をアナウンスしています。保護者の方からは「うっかり忘れることがなくなり助かる」と重宝されています。

★わが校の特徴的な取り組み ～「地域の方を講師に招いて」～

①目的

地域の方に学校にいらしていただく事で、学校に興味を持っていただきたい。また地域の方の新たなボランティアを発掘する。こどもたちと顔見知りになってもらい、通学路で会った際には挨拶のできる関係になってもらえれば見守りにもつながる。

②取り組みを開始した経緯

- ①4年担任より依頼。
- ②音楽の先生より依頼。
- ③1年担任より依頼。



③活動内容

- ①4年生の「お仕事紹介授業」で地域の様々なお仕事の方をお呼びし、どのようなお仕事なのか、どうすればそのお仕事に就けるのかをお話していただいています。毎年違うお仕事の方に来ていただいている、歯科医・保育園園長・芸人・洋服デザイナー・地下鉄工事業者などたくさんの方にお話していただきました。
- ②4・6年生の「音楽おこと授業」では地域のプロのおこと師範の方にいらしていただき、プロの演奏を聞いてからこどもたちも実際に弾いてみるという貴重な経験をさせていただいております。
- ③1年生の「昔あそび体験授業」では多摩六都科学館でもボランティアをされている地域の方が毎年コマを教えにいらして下さいます。時間がある時は実演もして下さいます。

④気をつけていること・苦労していること

毎年気をつけているのは、次回もいらして下さるよう、無理のない範囲で楽しくできるようにです。苦労するのは日程の調整です。日程をできるだけ早くお伝えできるようにしています。

⑤この取り組みの成果

地域の講師の方のお陰で安全で充実した授業になっています。講師の方はその後も鈴木小の様々なボランティア活動にご協力いただいています。また、こどもたちからは「楽しかった」「もっとやりたい」「貴重な体験ができた」など嬉しい感想をいただいています。

⑥今後の課題

保護者の方もそうですが、地域の方も近年は定年後もお仕事をされている方も多くお忙しいので、なかなかボランティアに参加するのが難しく人が集まらないので、たくさんの方々に関わっていただけるようにPRしていきたいです。

学園東小学校の取組

～ 学園東小学校はコミュニティ・スクールとして、地域とともにある学校づくりを進めています ～

コーディネーター世話人：西澤明夏・土井裕美

コーディネーターの人数(世話人含む):2人 ボランティアの人数:約50人

★わが校・地域の概要(様子)

学園東小学校は、東側は小平駅に通じるあかしあ通り、西側は西武多摩湖線の一橋学園駅、南側は警察学校・陸上自衛隊小平駐屯地、北側は青梅街道があり、四方を商店街に囲まれた比較的静かな住宅街の真ん中に位置しております。児童数は約370人で多くはありませんが、明るく元気な児童が多い学校です。また、コミュニティ・スクールとして、学校経営協議会を中心に学校・家庭・地域の絆を深め、こどもたちを取り巻く環境をよりよいものにしていくよう、取り組んでいます。

★わが校の支援の取り組み

- ①図書ボランティア：図書室の整理、本の修繕、しおり作り、季節の飾り作りや読み聞かせを行っています。
- ②園芸ボランティア：環境委員会と連携した花植え活動、花壇の整備をしています。
- ③ランチルームボランティア：こども達が楽しい給食時間をすごせるように季節にあった飾りつけをしています。折り紙や画用紙を使って飾りを作るなど保護者のボランティアに活躍してもらっています。
- ④お仕事体験：地域のお店に協力していただき、店舗での業務の一部を体験させていただいています。また保護者のボランティアに児童の送迎をお手伝いいただいています。
- ⑤ゲストティーチャー：放課後こども教室の「茶道教室」の先生に6年生の授業をお願いしました。
- ⑥保健体育の授業と連動した「ツボミスクール」の開催：内容は4年生の男女共修と保護者向けの講座をお願いしています。

★わが校の特徴的な取り組み ～ 図書ボランティア活動 ～

①目的

こどもたちの読書活動におけるさらなる充実
図書委員会の活動のサポート

②取り組みを開始した経緯

コロナ禍で中断していた読み聞かせを復活し、さらに活気づけるため、読み聞かせ団体「糸ぐるま」さんにご協力いただき、今まで以上に本に興味をもってもらえるようにしました。

③活動内容

各学年ごとに目標冊数を決め、達成したこどもたちにプレゼントするしおりを作っています。

また本の修繕や図書室の整備など、こどもたちの読書活動が充実するように活動しています。

現在本の読み聞かせを年3回行っています。読み聞かせをしてくださる「糸ぐるま」さんにお手伝いいただき、保護者の方と一緒に協力して活動しています。

④気をつけていること・苦労していること

朝の読み聞かせはなかなか集まらず、毎回人数が揃うかギリギリな状態です。なるべく人が集まれる日に活動できるように調整しています。

⑤この取り組みの成果

しおりを楽しみにしてくれているこどもたちがいっぱいいます。しおりを早くもらえるように頑張ってたくさん本を読んでもらっているようです。読み聞かせをした本に興味をもち、図書室へ行くこどももいます。

⑥今後の課題

参加していただける方が年々少なくなってきているので、今後どうやって続けていけるかが課題です。地域の方やCSにも参加していただけるように声をかけています。

「糸ぐるま」さんによる読み聞かせ



図書ボランティアによる本の修繕



地域での「お仕事体験」



上宿小学校の取り組み

～こどもたちの癒しの広場づくり～

コーディネーター世話人：羽根田厚子

コーディネーターの人数：5人 ボランティアの人数：約20人

★わが学校・地域の概要（様子）

本校は小平市の西に位置し、東大和市、立川市に接したところにあります。学区内には野火止用水・小川用水が流れ、周囲にはまだ畑がたくさん残っているなど、自然に恵まれた地域にあります。小平市で最後に創立した小学校ですが、今年で創立46周年となりました。運動場も広く、また中庭もあって、休み時間には運動場で走り回って遊んだり、縄跳びをしたり、中庭で虫取りをしたりして楽しく過ごしています。下校後にも野火止用水でザリガニ取りをするなど、“自然が友達”という児童も多く見受けられます。

★わが校の支援の取り組み

上宿小学校では現在、五つのボランティア活動を行っています。

- ・授業支援ボランティア…福祉体験授業や図工の授業で道具を使う際などの支援や校外学習の付き添いなど
- ・図書ボランティア…図書室の本棚の整頓や環境整備・本の修理・図書委員会の児童と協力しての啓発活動
- ・お話の森ボランティア…中休みの読み聞かせ
- ・お手紙ボランティア…学校だよりなどの配布
- ・グリーンボランティア…学校正門やニコニコの庭の整備

★わが校の特徴的な取り組み ～「グリーンボランティア」～

上宿小学校の特徴のある活動として、グリーンボランティアをご紹介します。

この活動は、こどもたちが“明日もまた来たい”と思える学校の環境づくりに少しでも協力できればとの思いで活動しています。上宿小には令和元年の学校創立40周年を記念して作った「ニコニコの庭」があります。これは当時の園芸委員会のこどもたちがアイデアを出し、地域の方やボランティアの協力のもとに作られました。中央にはタイルで校章を作成し、その周りを全校児童が思いを込めて文字や絵を描いた石で飾り、外側を季節の花で飾るモニュメントを作りました。その周囲は芝生広場となっています。季節ごとに花を植え替えたり、芝生の整備をしたりするのが、グリーンボランティアの主な活動です。この「ニコニコの庭」には休み時間になるとこどもたちが集まって来ます。芝生に寝転がってじーっと空を見上げる子、芝生に座って友だちとおしゃべりをする子、花壇の花に集まる虫を捕まえる子、鬼ごっこをする子、利用の仕方は様々ですが、こどもたちの笑顔を見られたときに、ボランティアの方々の笑みがこぼれます。また時には、外側の道路を歩く地域の方から「いつもきれいにしてくださってありがとう」という言葉を頂戴することもあります。卒業式の日には、お祝いの飾りをして、フォトスポットにもなります。芝生の整備などは年中の作業のため、近年の夏の猛暑の中の活動はとて大変です。熱中症対策として、活動開始時間を早めに設定したり、短時間で終わらせたりと工夫しながらの活動です。今後の課題としては、ボランティアのメンバーがなかなか集まらず固定化してしまっているの、たくさんの方に参加してもらう為にはどうしたらよいかみんなで考えていきたいと思えます。



小平第一中学校の取り組み

～ジョブスクール 10年後の君たちへ～

コーディネーター世話人：保坂 明子・牟田 千緒美

コーディネーターの人数：3人 ボランティアの人数：約45人

★わが学校・地域の概要（様子）

開校78周年を迎えた伝統のある本校は、地域の人たちの深いつながりの中で生徒たちが伸び伸びと育っています。古くからこの地域に住んでいる方が多く、3世代が一中出身である家庭も少なくありません。全校生徒は474人（令和7年12月1日現在）で、1年は5学級・2年は4学級・3年は4学級、特別支援学級は3学級です。小平駅の南側を学区とし、近代的な建物がある一方で畑も多数あり、農産物も畑で売られている地域です。学区の西には西武多摩湖線が通り、市役所があります。図書館と公民館の複合施設「なかまちテラス」が学校に近接しています。

★わが校の支援の取り組み

総合的な学習の時間では、「生き方を探る」というテーマで職業について学習を進めています。この学習の中で、1年生の「職業人講話」、2年生の職場体験の事前学習としての「ジョブスクール」など、学校のニーズに合わせて地域教育コーディネーターが地域や保護者、教員と協働して、学校外の力を効果的に生かすようにしています。生徒たちが多様な世界に触れて自分を発見するきっかけとなるという効果だけでなく、関わる大人にとっても自分自身を振り返る機会になっています。

学校図書館の支援は、毎年約12名の方のご協力を得ています。また毎年5月開催の「なかまちテラスまつり」では、一中生の作品展示の前日準備や当日の運営等に約15名の方の支援を得て活発に活動が行われています。放課後学習教室は、今年で12年目を迎え、地域の方と共に生徒の学びをサポートしています。

★わが校の特徴的な取り組み ～「ジョブスクール」～

①目的

2年生の職場体験の事前学習として行う取り組みです。職場体験が単なる体験で終わらせることなく、有意義な体験となるために、「働くこと」の意味や目的、それぞれの職場で大切にしていることなどを職場の方から直接指導していただき、生徒が「働くこと」を理解して職場体験に臨むことができるようにします。

②取り組みを開始した経緯

2年生で実施される職場体験は、地域の方の協力と理解が必要不可欠です。中学生の受け入れにあたり、感染症や人手不足などの影響から、「中学生に合わせた体験をさせることが、困難になっている。」というご意見がありました。お世話になる方々に、少しでも職場体験の価値をわかっていただき、さらに生徒が「働くこと」の意味や目的が分かったうえで体験を行い、「中学生を受け入れて良かった」と思ってもらえるように、担当学年と何度も話し合いスタートしました。

③活動内容

お世話になる事業所を「保育」「販売」「サービス」「飲食」「リユース」の5つのグループに分け、そこで働く人の仕事への想いと工夫などを学びます。また、それぞれの事業所での課題などについて、中学生の視点として課題を解決するためにはどうしたらよいかなどをグループで話し合う活動などを通じて、生徒が当事者意識をもって体験に望めるように、授業内容を工夫しました。

④気をつけていること・工夫していること

該当学年の生徒の様子や学年が抱える課題や現状を共有し、学校生活（授業や行事）とのつながりを意識した日程調整など、講師と教員とコーディネーターが事前の準備を丁寧に行っています。

⑤この取り組みの成果

- ・ジョブスクールの講師より
「さらに内容を検討し来年度に向けて準備をしたい。来年度楽しみにしています。」というような力強い感想や意気込みの言葉をいただけたこと。
➡事前学習の充実が図れたこと（経年でさらにより良いものとなる）に加え、講師となる方の想いを中学生に伝える場となっていること。
- ・職場体験を受け入れていただいた事業所より
「生徒がとてもしっかり取り組んでくれていて、とても助かりました。来年度もお待ちしています。」「表面上だけでなく、大切なことを理解して職場体験に望んでいることが、言葉、行動から感じることができました。」というような声が増えたこと。
➡職場体験が生徒の成長だけでなく、地域の事業所さんとのつながりが深まったこと。



小平第二中学校の取り組み

～自主的な学習を見守り、応援しています～

コーディネーター世話人：佐々木順子・吉永実穂

コーディネーターの人数(世話人含む):2人 ボランティアの人数:約30人

★わが校・地域の概要(様子)

小平第二中学校は、昭和30年9月、現在の小平第一中学校の分校として開校し、昭和32年4月に小平第二中学校として創立され、令和8年には創立70年目を迎えます。生徒数は547名で、令和7年度からは「自閉症・情緒障がい特別支援学級(S組)」が開設されました。令和元年度よりコミュニティ・スクールの指定を受け、地域とともにある学校づくりを目指しています。

★わが校の支援の取り組み

本校は、生徒たちが落ち着いて学校生活を送ることができるように、必要とされる学習支援や環境整備などの活動をしています。主な活動としては、「放課後学習教室」「花壇の手入れ」「蔵書点検」などがあります。年度初めや学校からの依頼に応じて、保護者や地域のボランティアの方たちにお知らせをして、ご協力いただいています。

また「学校を休みがちな子のこれからについて考える親の会(略称:ぷらっと親の会)」の方たちが助けや情報を必要としている人たちを支えるため、活動を続けてくださっています。

★わが校の特徴的な取り組み ～「放課後学習教室」～

①目的

生徒の自主的な学習を支援する。

②取り組みを開始した経緯

勉強で苦手な分野、わからないところを気軽に質問できる場として、スタートしました。

③活動内容

主に、定期テスト対策、検定対策(英検一次・二次、漢検)、入試対策などの支援を行っています。

生徒たちの様子を見ながら声をかけ、個別に教えるスタイルです。

英検二次対策では、マンツーマンで練習できるように時間を取っています。

新たな試みとして、ESAT-Jに向けて、生徒が学校で使用しているタブレットPCを使って、練習する機会を設けました。

外国にルーツのある生徒の支援にも取り組み始めました。学習支援とともに、学校から配布されたお知らせの内容を英語を交えて説明するなど、学校生活に関しても可能な範囲で支援をしています。

④気をつけていること

生徒たち一人一人の、その日の様子を見て、声をかけるようにしています。

学習支援員の意見や要望を聞き、学校に提案したり、学校と連携を取り、学校の様子などの情報を共有することにより、学習支援員が活動しやすい環境を整えるよう心がけています。

⑤この取り組みの成果

教室に来たものの、なかなかエンジンがかからない生徒もいますが、学習支援員からの温かい声かけで学習に取りかかれるようになっていきます。

英検3級に合格した生徒が、次は準2級の対策に申し込んだり、「合格しました」という報告を保護者から直接いただくこともあります。

⑥今後の課題

学習支援員は放課後こども教室推進事業だった時期から長く関わってくださっている方がほとんどで新たにご協力いただける方を探すことが今後の課題の一つです。また、日によって生徒の参加数にばらつきがあり、学習支援、居場所を必要とする生徒が参加しやすいように、これからも学校と協力しながら周知し、働きかけていきたいと思っております。



小平第三中学校の取り組み

～ひとりはおみんなのために みんなはひとりのために～

コーディネーター世話人：北村 明美・加門 恵妃子

コーディネーターの人数：2人 ボランティアの人数：約30人

★わが学校・地域の概要（様子）

小平三中は市内東方に位置し、6校の小中学校から入学してきます。近年、生徒数が増加しており、今年度の新入生は253人、8クラスになりました。全校生徒721人が集う運動会や音楽祭は壮観です。また、部活動もたいへん盛んで、吹奏楽部は今年度の全日本吹奏楽コンクールにおいて、金賞5連覇を成し遂げました。運動部も都大会へ多くの部が進出しています。

★わが校の支援の取り組み

保護者と教師の会(保教の会)、コミュニティスクール委員と連携して学校支援ボランティアの登録を行っています。保教の会が担当する行事以外の支援を地域教育コーディネーターが担っています。学習支援ボランティア・図書室ボランティア・花と緑のボランティアを募っています。来年度は保教の会が中心に行っていた行事支援を地域教育コーディネーターやCS委員から募集することも考えています。

★わが校の特徴的な取り組み ～「こださんフリールーム」～

①目的

生徒の居場所づくり

②取り組みを開始した経緯

何かと多用で多感な中学生。放課後、教室を出て自宅に帰り着くまでの間に息抜きが出来る場所、生徒の居場所になればと思い始めました。

③活動内容

不定期ですが、主に月曜日と木曜日の放課後、図書室を借りて実施しています。周知方法は、給食時間中に「地域教育コーディネータの〇〇からのお知らせです」と放送してもらいます。基本的に何をしても良い時間で出入りは自由です。

各々が自由な時間を過ごす中、小平の伝統行事「灯りまつり」の灯ろう造りをしたり、「好きな字や言葉を書いてみない？」と習字道具を準備し、自分と向き合う機会を勧めることもあります。

また、小平第五小学校の5SDGs研究会から古いTシャツを寄付してもらい「Tシャツで作るエコバッグ」を作成しています。作成したTシャツエコバッグは小平五小5SDGsを通して、市内図書館に寄付するボランティア活動に繋がっています。

④気をつけていること・苦労していること

来室者には必ず学年・組・氏名をノートに記入してもらいます。生徒が「まだいいですか？」と言えば最終下校時刻間際まで付き合いますが、あまり遅くなると保護者も心配すると思われるので「次回もまた参加してね」と促して下校が遅くなりすぎないように心掛けています。

⑤この取り組みの成果

生徒の居場所の一つになっていると思います。数回参加するうちに心を開いて、自身の困り事や悩みを打ち明けてくれることもあります。気になる内容や様子が見受けられたら学校に報告し情報を共有します。

二学期後半から3年生の参加が増える傾向があります。

保護者から「今度のこださんフリールームはいつありますか？」と問い合わせがあったりすると、続けてきて良かったとやりがいを感じます。

⑥今後の課題

昨年度までは一定数の参加者がいましたが、1・2年生のほとんどが部活動に参加するため、今年度は参加が少ない日もあります。一人では入りづらいのか図書室の入口から中の様子を見て帰る生徒もいます。すぐに声をかけますが、無理に呼び止めることはせずに見守るようにします。今後は給食時間だけでなく、周知方法を工夫していきたいと思っています。



小平第四中学校の取り組み

～健やかな成長を願いながら～

コーディネーター世話人：永坂るり子・今村泰子

コーディネーターの人数：2人 ボランティアの人数：約20人

★わが学校・地域の概要（様子）

小平第四中学校は令和7年度に創立60周年を迎えました。学校のすぐ南側には玉川上水が流れており、四季の移ろいを身近に感じることができるよい環境に恵まれています。周囲には住宅が立ち並び、校区内に高層住宅も見られます。校庭の東側にある「カルガモ池」には、その名のとおり毎年数組のカルガモが訪れ、ヒナと共に玉川上水に戻っていく姿を見ることができます。

生徒数は549名、勉強のほかにも部活動や生徒会活動などにも活発に取り組んでいます。

★わが校の支援の取り組み

◎図書ボランティア…学校司書不在日の昼休み開室補助や見守り、図書室の装飾やしおり作りなど、◎園芸ボランティア…環境整備の一環として、花壇やプランターの花の手入れ・草取り、夏休み中の水やり当番など、◎学習支援ボランティア…家庭科（調理や裁縫・ミシン・アイロン）、技術（のこぎりなどの実習見守り）、美術（彫刻刀の安全見守り）などの活動をしています。

年度当初に「学校支援ボランティア登録のお知らせ」を配布して登録カードを出していただいています。学習支援については先生より依頼を受けて登録者にメールで連絡、調整をしています。図書や園芸については養成講座を年に数回開催しています。

★わが校の特徴的な取り組み ～「実習時の安全・安心を」～

①目的

技術・家庭科や美術など実習を伴う授業時に安全・安心な授業実施のための見守りをおこなうこと。

②取り組みを開始した経緯

以前にも家庭科の調理・裁縫や、美術の彫刻刀使用時の見守りボランティアが授業に入ることはありましたが、当時は少人数の登録者で調整していました。コロナ禍後、学校経営協議会の中の地域学校協働本部の取組の一つとして、改めてその必要性を考え、令和5年度途中から登録者の募集を始めました。

③活動内容

家庭科…1年生調理 包丁やガスレンジの安全見守りと、調理手順などの補助説明
2年生裁縫 ミシンやアイロンの見守りや、必要があれば手順の補助説明

技術…1年生椅子製作 のこぎり使用時の見守りなど

美術…2年生木彫 彫刻刀を使った作業の安全の見守り

いずれも、毎時間に1名～2名のボランティアが支援に入っています。

④気をつけていること・苦労していること

授業の中で先生から実習の説明があるので、生徒と一緒によく聞いて学ぶようにしています。

生徒たちがボランティアに頼りすぎず、自主的に取り組んでもらえるような声かけ・説明を心がけています。

⑤この取り組みの成果

先生が全体を見ながら授業を進めることができていると思います。（学習支援ボランティアは、安全の見守りの他に、手順がすぐに理解できなかったり、お休みして進度が遅れたりしている生徒の支援もすることもあります。）

⑥今後の課題

今後も、今までと同様に毎年継続して登録ボランティアの募集ができること、教科の先生との連携を上手くとることができることが課題と考えます。

小平第五中学校の取り組み

～人と人、思いと取り組みをつなぐコーディネート～

コーディネーター世話人：張 明子

コーディネーターの人数：1人 ボランティアの人数：61人

★わが学校・地域の概要（様子）

小平第五中学校は周囲を住宅と学校施設に囲まれている。近隣には学校施設として幼稚園から大学までを擁する白梅学園、創価中学校及び高等学校、武蔵野美術大学、津田塾大学等があり、教科指導や部活動、地域交流において連携している。他にも豊かな自然があり、玉川上水、中央公園、テニスコートを併設する上水公園など、校外学習で活用している。

中学校区の小学校は第一小学校、第十二小学校、上宿小学校であり、中学校体験入学や年3回の小・中連携の日、小平特別活動の日等で児童・生徒及び教職員の交流がある。

昭和46年に開校し、令和3年には50周年式典を行った本校の特徴として、地域住民に卒業生が多いことが挙げられる。卒業生が地域住民として現在も多く居住しており、本校に愛着をもっている方が多い。

★わが校の支援の取り組み

本校は保護者や地域の協力を得て以下の取り組みを行っている。

- ・放課後学習教室：毎週水曜日の放課後に学習教室を開室
- ・長期休業日中の学習教室：不登校傾向の生徒に新学期へ向けた登校の刺激となるよう学習教室を開室
- ・各種検定監督：漢字検定、英語能力検定、数学検定の申し込みから受検までの運営
- ・花と緑のボランティア：学校の花壇等の花の世話
- ・図書ボランティア：図書室の開室と貸し出し手続き、蔵書点検
- ・学校公開受付：学校公開での保護者対応等

★わが校の特徴的な取り組み ～「生徒一人一人の学習を支援する放課後学習教室」～

①目的

- ・希望する生徒に落ち着いて学習に集中して取り組むことができる環境を定期的に提供する。

②取り組みを開始した経緯

- ・塾に通っていない生徒が落ち着いて学習に集中して取り組むことができる環境を提供したいと考えた。
- ・当初、会議等で部活動も行っていない時間に、教職員以外の方の協力があれば上記を実現できると考えた。

③活動内容

- ・年度当初に放課後学習教室の案内を作成して保護者に周知する。
- ・毎週水曜日の放課後にボランティアが集合して放課後学習教室を開室する。
- ・新しいボランティアを募集し、協力できるボランティアの予定を管理する。
- ・英検や漢検の前に過去の問題を用意し生徒が解答の練習ができるようにする。
- ・中間考査や期末考査の直前に特別の開室日を設け開室する。

④気をつけていること・苦労していること

- ・参加する生徒一人一人に声をかけ、質問できるように促している。
- ・放課後学習教室の成果を担当教員や管理職と共有するようにしている。
- ・基礎的な学習内容の定着が必要な生徒に、必要に応じて学習教材を用意している。

⑤この取り組みの成果

- ・毎週参加する生徒が増えた。
- ・集中して長時間取り組む生徒など、自らの意志で通う生徒が増えた。
- ・学習の成果を考査後に報告してくるなど、生徒からの感謝の声が聞こえるようになった。
- ・参加している生徒から様子を聞いた生徒の参加が少しずつ増えている。

⑥今後の課題

- ・毎週の参加を原則とし、参加できない日は「欠席届」を提出する決まりを徹底する。
- ・生徒が自らの取り組みを振り返り、一人一人の状況が担任にも伝わるようにする。
- ・生徒からの質問が増えようにする。
- ・大学生等、数年で入れ替わるボランティアの新規登録を増やし持続可能な環境をつくる。

小平第六中学校の取り組み

～地域とのつながりを意識化～

コーディネーター世話人：櫻井清子

コーディネーターの人数：1人 ボランティアの人数：約10人

★わが学校・地域の概要（様子）

小平第六中学校は、南に「小平ふるさと村」、北に「FC東京」のグラウンドを控え、近くを四季折々の草花が楽しめる「多摩湖自転車道」が通る、自然に恵まれた地区にあります。

創立54年(令和7年度)になる、各学年5～6クラスの学校です。「敬愛」・「勤勉」・「創造」を教育目標とし、部活動にも熱心に取り組んでいます。地域活動部は小平福祉園や青少対のお祭り等で活動しています。平成26年度からコミュニティ・スクールに指定され、同じ学区域の小平第七小学校、小平第十一小学校との連携を強くしています。

★わが校の支援の取り組み

校内環境の整備や行事を行うための準備等の支援を行っています。その他に、CSで取り組む「スマイルファーム」での活動にも参加していただいております。

★わが校の特徴的な取り組み ～「地域とのつながりを意識化」～

①目的

学校教育の現場と現状を意識した活動を行う

②取り組みを開始した経緯

地域・保護者に子供たちの現状を理解していただき、支援をしていただくために行った。

③活動の内容

〔行事関係〕 ・用具の整備 ・テントの借りだし ・防犯パトロール
〔スマイルファーム関係〕 ・畑として使用するための準備 ・苗植えの準備 ・作物の掘り出し支援

④気をつけている・苦労していること

・協力希望者を集める際、活動前の事前準備や支援方法への理解をいただけるように伝えること

⑤この取り組みの成果

活動の場を共にしたことで、互いを理解し合う姿が見れた。

⑥今後の課題

PTA活動など縮小化している上に、地域においても働いていらっしゃる方が増えているため、協力出来る方やボランティアの意識をお持ちの方が高齢化している。



上水中学校の取り組み

～上水中は緑豊かで花いっぱいです～

コーディネーター世話人：高橋雅子・坂本藤子

コーディネーターの人数：2人 ボランティアの人数：約20人

★わが学校・地域の概要（様子）

上水中学校は玉川上水のほとりにあり、閑静な住宅街の中にあります。保護者や地域の方は、小学校時代からの繋がりもあり、大変協力的な地域です。小規模な学校ですが、生徒は落ち着いて、安定した雰囲気です。

★わが校の支援の取り組み

本校は以前から、花壇の整備に力を入れています。

「ガーデニング講座」を年数回開催し、保護者の方、地域の方を中心に、寄せ植え、花の育て方について、ご指導いただいています。

★わが校の特徴的な取り組み ～緑のボランティアが盛んです～

①目的

学校の花壇を整備して、花を育て、生徒たちの心が明るくなるような雰囲気作りを目指しています。

②取り組みを開始した経緯

平成23年から住宅街の真ん中にある学校に相應しい緑の多い学校を作ること为目标にしました。初夏と初冬の2回、花を植えることにより1年中花壇に花があります。

③活動内容

年2回、市内の園芸農家の方を講師に迎え「ガーデニング講座」を実施します。

PTA役員の方々がとても協力的で、特に年度末には、卒業式、入学式にあわせて、花壇の花が最高にきれいになるように整備します。

④気をつけていること・苦労していること

学校の行事、PTAの行事との調整をして、無理なく計画しています。

早めの計画を立て、保護者の方、地域の方が参加しやすいようにしています。

⑤この取り組みの成果

保護者の方がとても協力的で、生徒たちもきれいな花壇に興味を持ってくれています。

生徒の整備委員会が作っている花壇も、お互い競いながら楽しく活動しています。

⑥今後の課題

上水中学校は緑が多いので、今後も花壇を増やしていきたいと思います。

生徒が卒業しても地域のボランティアとして参加してもらえたらと思います。



花小金井南中学校の取り組み

～一人一人を大切にする学校～

コーディネーター世話人：小林尚美・小林知美

コーディネーターの人数(世話人含む)：2人 ボランティアの人数：約60人

★わが校・地域の概要（様子）

都立小金井公園、小金井カントリー倶楽部の北側に位置し、緑豊かで落ち着いた環境にある花小金井南中学校は、令和9年度に50周年を迎えます。

校区内の戸建て住宅や大型マンションの建設に伴い、今後さらに生徒数の増加が見込まれます。

★わが校の支援の取り組み

- 図書ボランティア（制作・開館補助・読み聞かせ）
- 学習支援ボランティア（特別支援学級の授業サポート）
- 放課後学習教室（毎週水曜日放課後開催、自主学習支援）

★わが校の特徴的な取り組み ～放課後学習教室 地域の支援員に支えられて～

①目的

学校において、生徒の自主的な学習への取組を支援する。

②取り組みを開始した経緯

地域未来塾の一環で、通常の学級では定期テストに向けて不十分な点や疑問点を克服できる場として平成29年度より、特別支援学級では基礎的な学力の向上を目指して平成30年度2学期より開始。

③活動内容

通常の学級、特別支援学級ともに基本毎週水曜日の放課後に自主学習の支援を目的として実施。加えて通常の学級では、定期テスト前対策や英検対策、ESAT-J対策、数学学習教室など、学習に対する意欲や意識を高めるための目当てを組み込んだ活動も実施。

④気を付けていること

活動後に参加した生徒や支援員から感想や今後の要望などを聞くようにしています。それらをもとに改善点などを探し、より良い教室作りに努めています。

⑤この取り組みの成果

生徒の確実な学習時間を確保し、授業中や塾などでは難しい個々にあった密な指導を受けることもでき、充実した学習時間を過ごせていると思います。

⑥今後の課題

地域の支援員さんに支えられ活動していますが、対応できる支援員の減少が不安要素の一つで今後の課題と考えています。生徒、支援員ともに充実した時間となるよう活動内容や環境をさらに整えていきたいと思っています。



**未来を担うこどもたちを地域で育てる
小平地域教育サポート・ネット事業
(学校支援ボランティアの推進)
実践事例集令和7年度版**

令和8年3月発行

編集 小平市教育委員会教育部地域学習支援課
〒187-8701 東京都小平市小川町2丁目1333番地

TEL 042 (346) 9834

FAX 042 (346) 9578

E-mail chiikigakushushien@city.kodaira.lg.jp